高千穂産業株式会社・高千穂化学工業株式会社

2023 年度環境経営レポート

（対象期間： 2023 年3月1日～ 2024 年2月28日）

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です

エコアクション21

認証番号0011333

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

発行日： 2024年6月27日

目　　次

項　　目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価,次年度の計画	7～11
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	12
緊急事態対応訓練	13～14
代表者による全体の評価と見直し・指示	15
これまでの環境活動の紹介	15

念願の質量分析計を導入しました。
研究室内で研修をし、メンバー全員使用できる体制を整えています。

環境経営方針

環境経営理念

化学工業薬品及び循環型原料の開発製造を行う日々の生産活動において発生する廃棄物の発生抑制、再利用に努め、次世代への明るい未来の構築に向け、努力を行います。
地球環境の保全に向けた取り組みや様々な環境活動に全員参加で自主的・積極的・継続的に取組みます。

環境保全への行動指針

１．　環境関連法規制、条例等を遵守します。

２．　電力、ボイラーの運転効率化を行い二酸化炭素排出量の削減に努めます。

３．　資源の有効活用を行い、廃棄物の削減に努めます。

４．　節水活動により使用水量の削減を行います。

５．　化学物質の適正使用・管理を行います。

６．　回収精製事業の効率化、売上UPを行い企業価値向上により循環型社会の構築に貢献します。

上記活動をとおして次世代への明るい未来をめざします。

制定日：2015年10月1日
改定日：2021年8月10日

代表取締役社長　荒木康秀

組織の概要

更新日：2024年6月27日

【名称及び代表者名】

高千穂産業株式会社・高千穂化学工業株式会社
代表取締役社長　荒木　康秀

【所在地】

本社・工場　　大阪府豊中市名神口3丁目6番地27
高千穂化学工業株式会社　大阪府豊中市名神口3丁目5番8号

※高千穂産業と高千穂化学工業は同じ敷地内にある

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

責任者	専務取締役	荒木　利幸	TEL：06－6334－4381
担当者	財務経理室	石上　美樹	TEL：06－6334－4381

【事業内容】

化学工業薬品の製造・開発、使用済み原料の再生
業務内容：使用済み原料から精製・抽出による循環型原料の製造を行う

【事業の規模】

売上高　　2.1 億円

	本社・工場	高千穂化学工業株式会社	合計
従業員　名	11 名	2 名	13 名
延べ床面積　㎡	1490	㎡	1,490㎡

【事業年度】　　3 月　1 日 ～　2 月　29 日

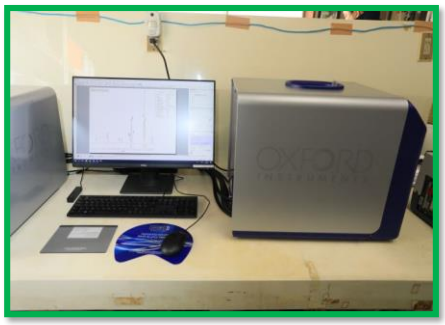
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：　高千穂産業株式会社・高千穂化学工業株式会社
対象事業所：　本社・工場
　　高千穂化学工業株式会社

対象外：　なし　　全社認証登録範囲
活動：　化学工業薬品の製造・開発、使用済み原料の再生

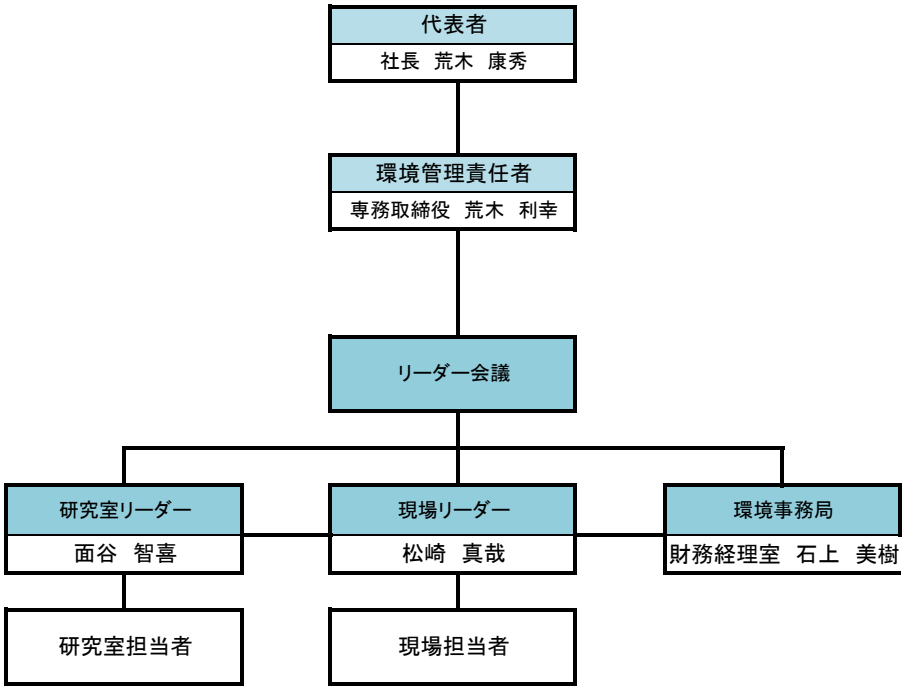
□事業や製品（商品）の紹介

高千穂産業株式会社は化学薬品の受託合成をしております。
長年積み重ねてきた塩素化、フッ素化、臭素化を得意とするハロゲン化の技術に加え、化成品、医農薬中間材料などファインケミカルの開発委託加工を行っております。
様々な受託合成をこなしてきた中で、クロロメチルメチルエーテルは弊社の製品として代表的な品目です



環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日： 2023年3月13日



《号棟別責任者一覧》

1号棟	寺坂	
2号棟	寺坂	
3号棟	松崎	井口
4号棟	石上	岡田
5号棟	乃村	阪本
6号棟	北野	玉谷
7号棟	面谷	松岡
8号棟	新田	
9号棟	新田	

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
リーダー会議	・環境経営計画の審議
	・環境活動実績の確認・評価
各部門リーダー	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成
	・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実
	・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応の
	・試行・訓練を実施、記録の作成
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

項　目	単位	2021年	2022年（基準年）	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	102,034	92,317	99,807
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	814	813	1,201
産業廃棄物排出量	トン	178,385	174,144	210,059
水使用量	m^3	2,513	2,119	3,172
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後）		0.509	0.477	0.564 kg-CO2/kWh
※　二酸化炭素排出量には、LPGも含む		アンフィニ(株)	アンフィニ(株)	Japan電力
		2019年度	2020年度	2022年度

環境経営目標及びその実績

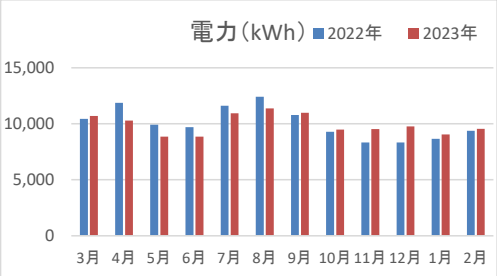
□環境経営目標及びその実績

項　目 ＼ 年　度		基準値（基準年）	2023年（目標）	2023年（実績）	評価	2024年（目標）	2025年（目標）
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	58,185	57,603	67,317		57,021	56,439
	基準年度比	2022年	99%	116%	×	98%	97%
原単位	kg-CO2/千円	0.272	0.269	0.322	×	0.267	0.264
A重油による二酸化炭素削減	kg-CO2	23,692	23,455	24,469		23,218	22,981
	基準年度比	2022年	99%	103%	×	98%	97%
原単位	kg-CO2/千円	0.111	0.110	0.117	×	0.109	0.107
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	10,115	10,013	7,704		9,912	9,811
	基準年度比	2022年	99%	76%	○	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	91,992	91,072	99,489	×	90,152	89,232
電力使用量の削減	kWh	121,981	120,761	119,356	○	119,541	118,322
	基準年度比	2022年	99%	98%		98%	97%
一般廃棄物の削減	kg	813	797	1,201		797	789
	基準年度比	2022年	98%	148%	×	98%	97%
廃液の削減	kg	170,514	168,809	210,279		167,104	165,399
	基準年度比	2022年	0.99	1.23	×	0.98	0.97
原単位	kg/万円	0.80	0.72	1.01	×	0.71	0.70
水道水の削減	m^3	2,119	2,098	3,172		2,077	2,055
	基準年度比	2022年	99%	150%	×	98%	97%
化学物質の管理	kg	930	921	2,220		874	865
	基準年度比	2022年	99%	239%	×	94%	93%
回収精製事業の売上UP	5年売上平均	3260	3358	5166		3390	3423
	(2019～2023年平均)						
	基準年度比	(2017～2021年平均)	103%	158%	○	104%	105%
提案力を強化する社内体制の構築	行動目標（次項による）						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標：〇達成　×未達成
活動：◎よくできた　〇まあまあできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

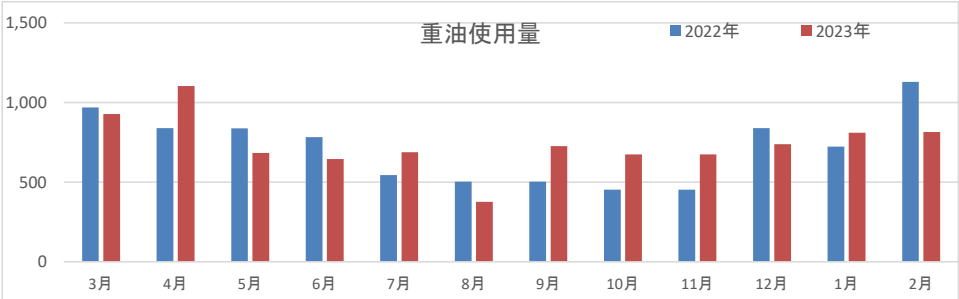
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	使用量は基準年対比97.8%と達成してるが、二酸化炭素排出係数のUPにより目標未達成であった。手段として現場のスケジュールは、同一品を連続製造する等釜洗いの頻度を減少させ時間短縮を図っている。研究室では精密機器の室温管理が難しく、空調を使用しているが扉に注意喚起を行うなど開閉忘れを防ぐ努力をしている。今後は二酸化炭素係数の低い電力会社へ変更する事も考えていく
原単位目標	×	
・不要時の消灯の徹底（各担当者の意識付けを行う）	△	
・釜洗浄を含む作業の効率化	〇	



研究室入口に掲示し
節電効果

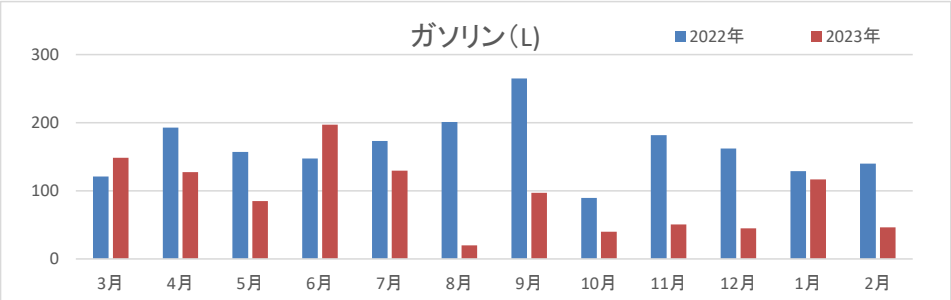
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	10,443	11,883	9,923	9,698	11,616	12,425	10,784	9,297	8,339	8,339	8,667	9,373
2023年	10,701	10,299	8,847	8,852	10,934	11,371	10,989	9,479	9,528	9,757	9,054	9,545

A重油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	上半期は目標達成できていたが、年間通しては前年対比103%と未達であった。ボイラー使用案件の増加に伴うものではある
原単位目標	×	
・ボイラーブロー削減	×	
・釜洗浄を含む作業の効率化（作業標準書の	△	

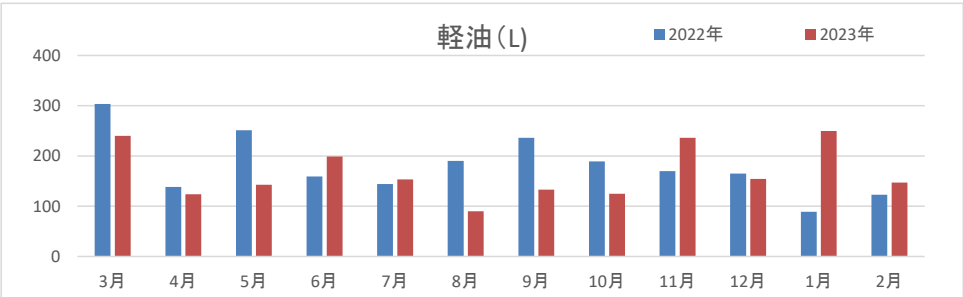


	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	969	840	838	783	544	504	503	453	453	840	723	1,129
2023年	927	1,104	684	646	688	377	726	674	674	739	810	815

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	11月フォークリフトの故障で社員の意見も取り入れ、3月新車で電池自動車購入。代車が軽油対応車の為、基準年とはガソリン・軽油の内訳が変わっている。又長期休暇の者がおり社用車利用者が1名の事もあり基準年から大幅なダウンとなっている。
・フォークリフト作用の効率化の為倉庫の整理	○	
・不要物の積載を避ける	○	

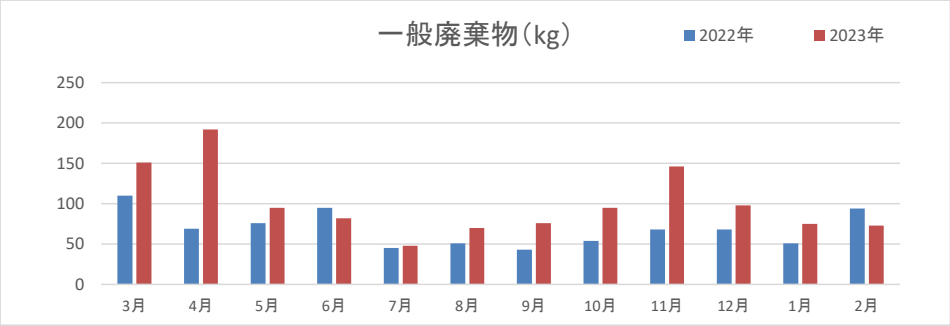


	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	121	193	157	148	173	201	265	89	182	162	129	140
2023年	149	127	85	197	130	20	97	40	51	45	117	47



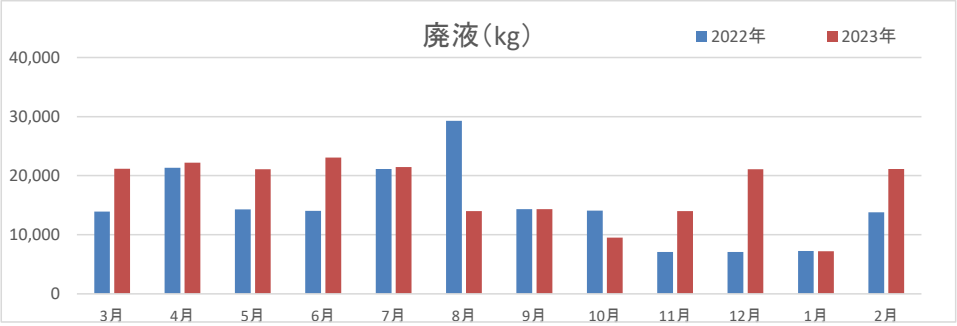
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	304	138	251	159	144	190	236	189	170	165	89	123
2023年	240	124	143	199	154	90	133	125	236	155	250	147

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	基準年対比148%と大幅に未達であった。書類保存の電子化やペーパーレスが未だに浸透していない。コピー使用量が目に余って増加している時は周知しており無駄な一般ごみを生み出さない様徹底していきたい。
・ペーパーレスの徹底・書類保存の電子化	×	
・廃棄物分別の徹底・金属ゴミリサイクルの推	○	



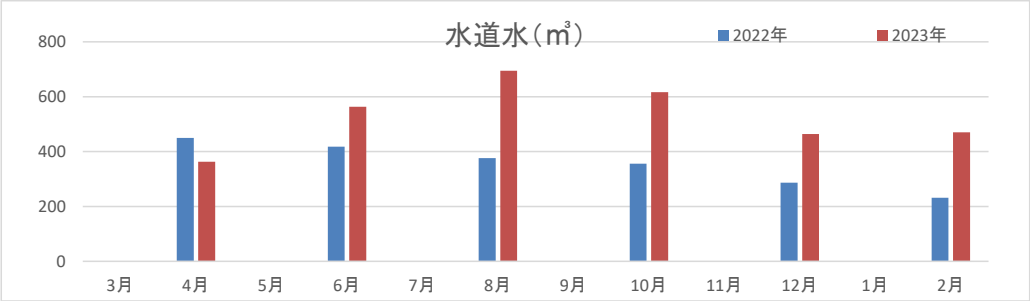
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	110	69	76	95	45	51	43	54	68	68	51	94
2023年	151	192	95	82	48	70	76	95	146	98	75	73

廃液の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	長年産廃に搬出できていなかった廃液を、定期的に処分を行う仕組みができてきた。特に10月研究室での少量の廃液をまとめて搬出できたのはエコアクション活動ならびに3S活動としても素晴らしいと思う。
原単位目標	×	
・釜洗浄方法の実直し（使用薬品・量など）	△	
・再利用可能は溶媒の選定（釜洗浄を含む）	△	



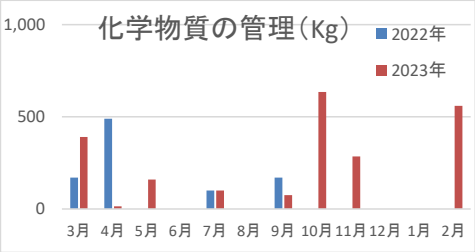
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	13,910	21,320	14,280	14,050	21,120	29,274	14,340	14,090	7,080	7,080	7,240	13,810
2023年	21,180	22,199	21,110	23,070	21,460	14,010	14,320	9,530	13,990	21,070	7,220	21,120

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	井戸水で釜の冷却等を行っていたが、使用できなくなった為、昨年対比150%と大幅増加となっている。その環境の中でも同品目を連続製造する等対策を講じていかなければならない
・実験器具や備品の洗浄方法の効率化（つけ	△	
・製品毎の水使用量のデータ蓄積（チェック表への記載	○	
製品毎の改善策の検討		
・同品目を連続製造	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	0	450	0	418	0	376	0	356	0	287	0	232
2023年	0	363	0	563	0	695	0	617	0	464	0	470

化学物質の管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	増産計画のでている商品で使用される化学物質もあり、今後は購入数量も増加されると思う。溶剤の色分け管理も徹底されており、管理体制も定着されている。
・転倒漏洩の徹底	△	
・保管場所の定位置化と明確化	○	
・溶剤の色分け管理	○	



ポリ容器に表示と
棚にチェーンで
転倒防止

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	170	490	0	0	100	0	170	0	0	0	0	0
2023年	390	15	160	0	100	0	75	635	285	0	0	560

回収精製事業の売上UP	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
5年売上平均	○	管理者が行っていた見積書の算出を現場長が行い、単価に則した製造作業に注意する事で売上増加に貢献出来る様になっている。工程短縮にも社内で協力する体制が整いつつある。
・営業力強化（取引先担当者との情報交換を	○	
・製品の信頼性、作業効率向上	○	
・脱炭素系経営宣言（大阪府）登録予定	○	

5年平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2018～22年	317	539	413	591	272	295	400	217	197	206	330	328
2019～23年	423	600	499	770	412	416	406	271	269	257	482	361

提案力を強化する社内体制の構築	達成状況	
・自主的なリーダー会議の開催	○	工場長の仕事を各室長や社員に分担させることで、価格改定や効率化を進める事ができた。月1回の室長ミーティングで社内の問題を早期解決し、お互いの悩みを相談できる事で社内が潤滑に回っていく。SDGsやBCP活動は思った様に進まなかった。
SDGs活動（SDGsの勉強・ポスター表示等）	△	
BCPの構築（BCPの勉強等）	△	
カーボンニュートラルへの投資計画	△	

高千穂の取組紹介

【電池式フォークリフト購入】

11月フォークリフトが故障し購入する事になりました
社内で何度も協議し、ガソリン式から電池式へ機種変更し購入しました。
エコアクション活動で何年も前から電気式導入を考えておりましたが、
ようやく実現いたしました。

【奨学金支援（代理返還）規定の制定】

昨年奨学金支援（代理返還）制度を導入し従業員が制度を利用しています。
今年は大阪府育英会の奨学金についても追加支援することになりました。

【ラベルレスドリンクの購入】

来客用や従業員用のドリンクを一括で購入してますが、
ラベルレスを選んで購入する様にしています。
お客様からも「ラベルレスはいいですね」と好評です

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

環境関連法規制等名称	該当する設備・項目
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫の設置
労働安全衛生法	SDS義務のリスク評価、基準濃度以下の管理、化学物質管理責任者の選任
顧客要求事項	環境管理、品質管理、含有物調査依頼

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

特になし

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定:　　心肺蘇生法講習会

■実施日:　2023年6月28日水曜日

■実施場所:弊社4号棟

■参加者:

あしだこども診療所 芦田医院長、
荒木社長、荒木工場長、面谷、北野、岡田、松岡、松崎、乃村、玉谷、阪本、寺坂、新田、井口、石上

■実施内容:　☑通報訓練　☐消火訓練　☐避難訓練

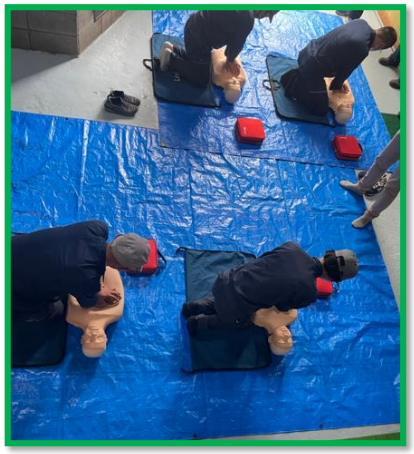
芦田医院長の指導による、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行った。 社員が倒れたと想定し、救急車が到着するまでに何をすべきか学ぶことが出来た。

■評価:

手順書の変更の必要性　☐ あり　☑ なし

その場に応じた役割分担(応援要請係・緊急連絡係・患者対応係など)やAEDの使用方法などを習得し、社員全員が積極的に参加した。 人工呼吸を行う場合でも、1人では体力的に厳しいことが分かり、より多くの方に救助活動に参加して貰う必要性があることが身をもって実感できた。

■実施状況の様子



緊急事態の想定:　　8号棟消火訓練

■実施日:　2024年2月16日水曜日

■実施場所:弊社8号棟

■参加者:

面谷研究室長、岡田、松岡、神田、荒木利幸取締役

■実施内容:　☑通報訓練　☑消火訓練　☐避難訓練

消火訓練、校内放送実施、消防・近隣への連絡体制確認、消火器使用期限・設置場所確認。

■評価:　　手順書の変更の必要性　☐ あり　☑ なし

以前6号棟、7号棟で火災が発生したことを想定し、消火器持参から消火活動まで手順の確認を行っていたが、今回は8号棟で出荷した場面を想定し訓練を行った。 8号棟は普段作業者が常駐していないことから、発見当時者が迅速に他者に情報を伝える重要性を考え、火災対応手順書の内容確認、社内電話からの行内放送の実施確認、消防や近隣への連絡体制の確認実施、消火器の設置場所の確認を行った。

■実施状況の様子

今回は8号棟右側より火災が起こったと想定し消火訓練を行った。 全体連絡を行い、各棟から消火器を持参し消火活動を行う訓練を行った。

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2024年6月27日

パリ協定を背景に2050年までのカーボンニュートラルに向かう動きが、世界的に加速している。
我々「化学品の受託合成」の業界においても、多くのメーカーが環境保全を経営の重要課題として取り上げている。
ここにきてサスティナビリティへの対応が、コストではなく財務成果へつながる動きとして成り立っていることの評価が大切だと感じている。
弊社におけるフォークリフトのガソリン車から電池車への乗換は、2023年に掲げた目標に従って実現した。
次の目標は、節水において成果を示せる策、効率化を伴った節電、そして営業車のハイブリッド化・EV化などを明確に立てる必要がある。

環境経営方針	☑ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☑ 変更あり
実施体制他	☑ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介

月1回の3S活動は継続中です

この月は手付かずであっ

□編集後記

目標に掲げられていたフォークリフトのガソリン車から電池車への乗換を実現することができた。
何度も社内で協議を行ったが決め手はエコアクション活動を第一と考え購入に至った。
今年は2名入社しており、前職のエコアクション活動のアイデアも取り入れて益々社内で活動を共有していきたい。